

2008年度の紙パック回収率

堅調に伸び続ける紙パックの回収率。2008年度は42.6%となりました。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2009年も6月～10月に実施され、2008年度のリサイクルの状況が明らかになりました。

飲料用紙パック出荷量の減少にも関わらず、紙パック全体の回収率(産業損紙・古紙を含む)は42.6%と、前年度比+1.5ポイント。また使用済み紙パック回収率(家庭系+学乳などの事業系)が32.0%(前年度比+1.5ポイント)と、回収率は堅調に伸びました。

今回は、家庭系使用済み紙パック回収率が初めて30.0%(前年比+1.3ポイント)に達しました。リサイクル活動が各家庭にも確実に浸透していることがうかがえる結果となりました。

※2008年度の調査では、紙容器メーカー9社・飲料メーカー334社・小学校2,209校・1,800市町村・スーパーマーケット930社・再生紙メーカー39社・市民団体および福祉作業所6ヵ所を調査対象としました。
 ※紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
 ※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2008年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

42.6%

(2007年度 41.1%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=107.1千トン÷251.0千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

32.0%

(2007年度 30.5%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=67.4千トン÷210.9千トン

自治体の紙パック取引価格は引き続き上昇傾向です。

紙パック古紙は、紙の繊維が長くて太いことなどから、良質の再生紙原料といえます。このため、他の古紙より比較的高値で取引されています。自治体の紙パックの取引価格は、それぞれの市町村によって価格を決める条件がさまざま、標準的な価格を出すのは困難ですが、ここでは紙パック単独価格を設定し、同価格に紙パック価格以外の付加条件がつかない市町村を対象に、引渡価格と持込価格に分けて価格を集計しました。また、集団回収の取引価格も集計しました。

多くの取引価格が、経済不況の影響を受ける前に設定されたと考えられ、取引価格は前年に引き続き上昇傾向、過去最高値となる項目が多く見受けられました。特に、取引件数が増えている古紙回収業者の引渡価格が8.5円/kgと、前年に比べ大きく上昇しました。

紙パック古紙の取引価格

		2006年度	2007年度	2008年度	
市町村回収	古紙回収業者	引き渡し	6.6	6.7	8.5
		持込込み	6.1	7.3	7.8
	古紙直納問屋	引き渡し	8.4	9.3	9.3
		持込込み	7.4	8.4	9.4
集団回収	再生紙メーカー	引き渡し	5.4	9.4	11.9
		持込込み	8.9	9.4	9.7
		引き渡し	4.2	5.0	5.6
		持込込み	5.5	6.4	5.8

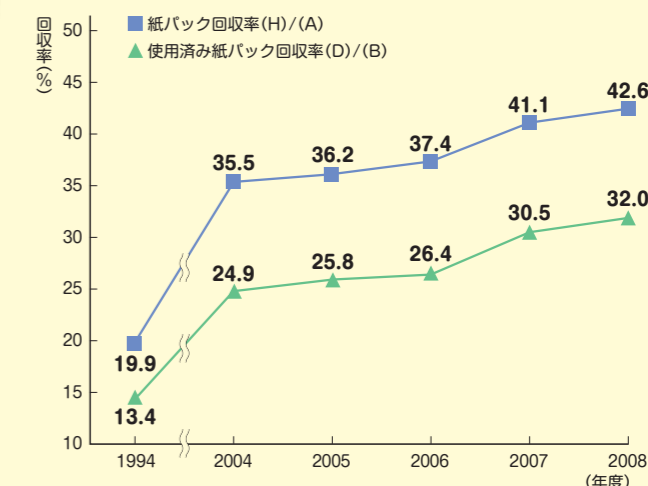
(円/kg)

紙パック回収量は着実に増加しました。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸びています。これを回収量で表したのが下の表です。

2008年度の回収量は全体で107.1千トンと、前年に比べて1.8千トン(+1.7ポイント)の増加。そのうち使用済み紙パックの増加は、1.6千トンでした。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

区分	1994年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	246.3	252.4	257.8	255.9	251.0	-1.9%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	32.2	33.9	36.9	36.6	37.1	1.4%
飲料メーカー産業損紙発生量	-	3.0	2.4	3.2	3.6	3.0	-16.4%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	213.2	215.9	216.8	215.7	210.9	-2.2%
家庭系(C)	168.7	188.4	191.5	191.2	194.1	189.3	-2.5%
自販機等(事業系)	18.5	15.2	12.8	13.5	9.9	9.8	-1.5%
学乳(事業系)	10.7	9.6	11.5	12.0	11.7	11.8	0.9%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	53.2	55.7	57.1	65.8	67.4	2.5%
家庭系回収量(E)	25.9	46.3	47.5	48.1	55.6	56.7	1.9%
店頭回収量	13.8	25.0	25.4	24.4	31.8	33.4	4.9%
市町村回収量	4.3	12.3	12.6	13.6	14.4	14.4	0.1%
集団回収量	7.8	9.0	9.6	10.1	9.4	8.9	-5.4%
事業系回収量(F)	0.6	6.9	8.2	9.0	10.2	10.7	5.3%
学乳紙パック回収量	0.6	6.3	7.4	8.4	8.8	9.3	4.9%
自販機・飲食店等	-	0.6	0.7	0.6	1.3	1.4	8.1%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	34.3	35.6	39.2	39.4	39.7	0.5%
紙パックメーカー回収量	16.5	32.2	33.9	36.9	36.6	37.1	1.4%
飲料メーカー回収量	-	2.1	1.7	2.3	2.9	2.6	-10.4%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	87.5	91.3	96.4	105.2	107.1	1.7%
紙パック古紙輸入量	-	2.7	3.4	10.3	12.3	13.9	12.9%
紙パック総受入量	43.0	90.2	94.6	106.7	117.5	120.9	2.9%
紙パック再資源化量	30.1	67.5	70.7	80.2	89.2	93.8	5.2%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	35.5%	36.2%	37.4%	41.1%	42.6%	1.5%
使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	24.9%	25.8%	26.4%	30.5%	32.0%	1.5%
家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	24.6%	24.8%	25.2%	28.7%	30.0%	1.3%

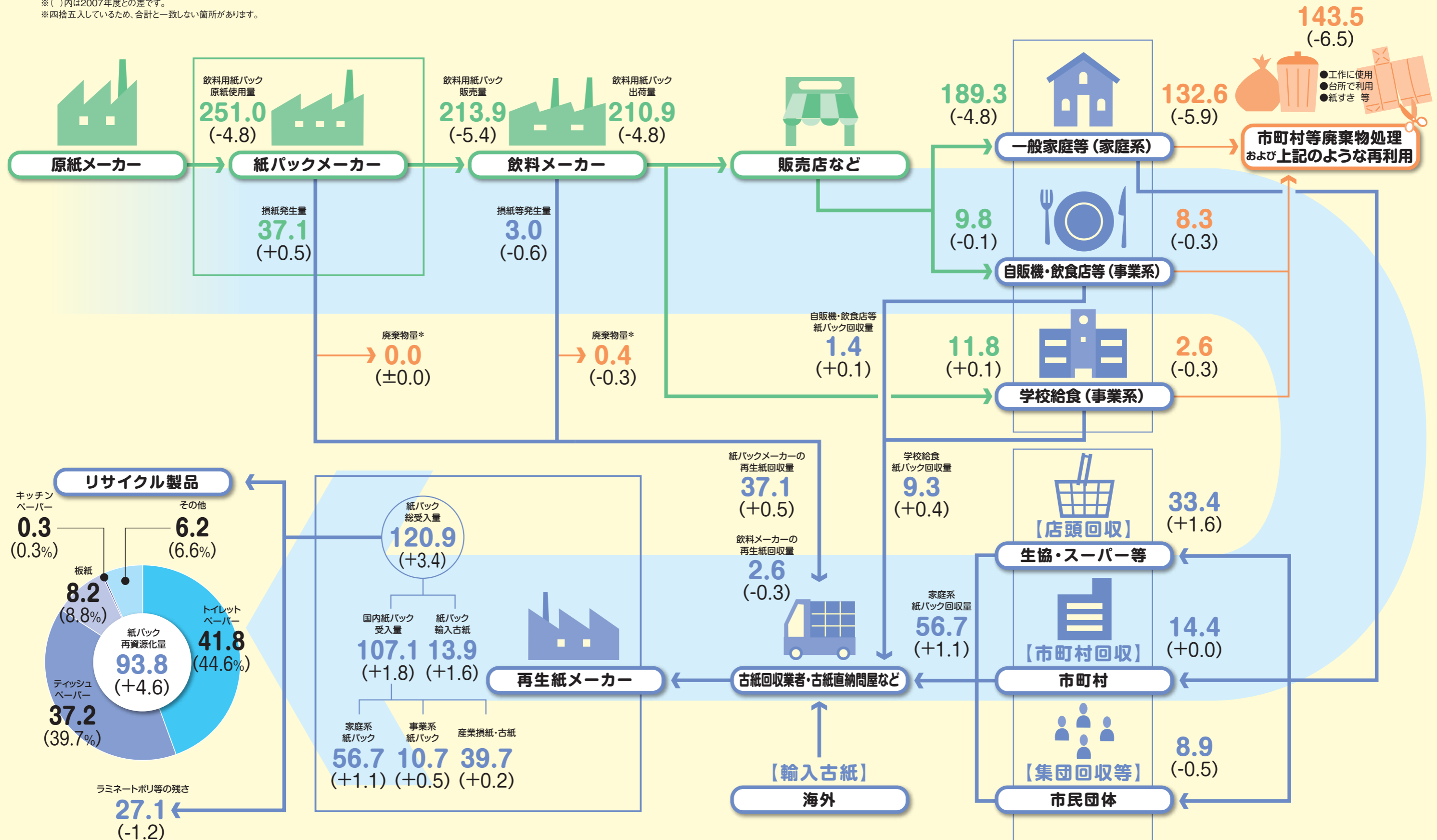
※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。
 ※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。
 ※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。
 ※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。
 ※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。



2008年度 紙パックマテリアルフロー

2008年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2007年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。